

第2回 天王寺区 区政戦略会議について

平成24年12月17日（月）19時から天王寺区役所 5階 502会議室におきまして、第2回天王寺区区政戦略会議を開催しました。

次第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 天王寺区将来ビジョン（素案）について
 - (2) その他
- 3 閉会

議事概要

1 区役所からの資料説明

- ・天王寺区将来ビジョン（素案）説明用レジメ

2 意見交換

○委員より次のような意見があった。

- 1・戸別訪問型区民の声集約チーム～あなたの声をつなげ隊～活動について、費用対効果をきっちりと考えて行く必要がある。

（インターンシップ）

- 2・実施に際しては、受け入れてくれる企業の拡充を図ってほしい。
- 3・制度設計の際に、学校の考え方や姿勢についてヒアリングを行ってほしい。生徒を平等にどのように扱うか、教育者の考えも聞いて欲しい。
- 4・区内の高校に通う区外在住の生徒も対象とするのか、区内在住の高校生を対象とするのか。区内在住に限定するのであれば、学校との連携が難しい
- 5・中学生・高校生のどのくらいの割合が企業へ行くことができるのか？NHKの「ようこそ先輩」という番組のように、逆に企業から学校に来てもらい、教えてもらうなどすれば人数の制限も無くなるのではないか。
- 6・安全衛生法から見て、企業が受け入れるだろうか。受け入れている間は何も問題が無くても、その後に健康被害が出た場合に、企業の責任を問われるとなると、すごく気を使うと思う。学生にずっとつきっきりにならないのであれば、景気も悪いし、区から補助金でもないと、受け入れは難しいのではないか
- 7・学校側からすれば、放課後に自校の生徒がインターンシップに行くのであれば、付き添いが必要で、交通費の問題もある。学業の遅れをどうしてくれるのか、など、保護者の理解を得るのに慎重に検討しないといけない。

- 8・受け入れる側の企業のメリットが無いと進まないのではないかな
- 9・運営している会社のリサイクル工場に学生が見学に来ることがあるが、マンツーマンにするとか、機械のそばには近づかないなどのルールを決めたうえで受け入れる。CSRは良いが、協力企業をいかに見つけられるかが課題。
- 10・子どもを持つ身だが、自己責任での参加には大賛成。協力頂く善意の企業に迷惑をかけることの無いようにしてほしい。
- 11・デメリットもあると思うが、メリットの方が大きいのではないかな。体験することで、次の担い手を育成する観点もあると思う。企業への受け入れだけではなく、例えば区民まつりで子どもに1つ出店してもらうとかも良いのではないかな
(高齢者の見守り)
- 12・見守り体制の強化は、とても良い案だと思う。実際に、独居の遠縁がいるので、チームを組んで見守りしてもらえるのは、すごく良いと思う。
- 13・地域福祉の項目では、高齢者の見守りにしか触れていないが、難病や障がいを持って人への施策はどのように考えているかな
- 14・こうした見守り体制の強化は、以前に福祉の仕事をしていたこともあり念願だった。現在のネットワーク委員会とリンクした取組を進めると言うことですか。うまくかみ合わせると、良い取組になると思う。
- 15・見守りに町会の活躍の場があると思う。それで足りないものはボランティアにお願いするなどできないかな
- 16・昔ながらの町並みがある地域と、マンションが多いと地域があり、それぞれで地域実情が異なるので、応じた対応が必要
- 17・ポストに新聞や手紙が多くとまっていた場合、見守りサポーターの連絡先がわかれば連絡をする事ができる。◎◎ダイヤルのようなものを作り、対応してもらえれば良いと思う。
- 18・ネットワーク推進員は H25 年 3 月に廃止される。これまで蓄積されたノウハウやデータについては、次の見守り体制に継承されるべきだ。
- 19・ボランティアはなかなか集まりにくいと思うので、区役所職員が有給休暇の際に見守りに参加するとか、CSR（企業の社会的責任）など協力を仰いではどうか
- 20・地域包括支援センターという制度がせっかくあるので、役割分担などして、有機的に連携させるべきだと思う。
(災害対策)
- 21・ソフト面も良いが、ハード面において弱点を抱える地域の課題も解消していくべき。災害時に危険な電柱の地中化を行うなど。
- 22・つなげ隊に災害対策出前講座もしてもらうのなら、見守りサポーターにも防災の内容をやってもらえたほうが効率的ではないかな
- 23・つなげ隊にいろいろやってもらうと業務量が増えるので、ボランティアにも参加して

もらえれば良いのではないか

- 24・A4 1枚もので全戸配布する資料について、住居だけでなくオフィスにもかなり被害がでると思われる。学校や企業にも配布を検討して欲しい。

○区役所からは次のような回答を行いました。

- 1・行政の行う事業の中には、コストベネフィット（費用便益）に馴染むものと馴染まないものがあり、18名の人件費を投じるに値するかどうか、判断すべきものとする。（インターンシップ）
 - 2・様々な選択肢があった方が良いと思うので、制度設計の際に丁寧に詰めて行きたいと思う。
 - 3・7・学校のカリキュラムの改編は必要無く、放課後を利用して実施したいと考えている。社会教育を補完する観点から取り組みたいと考える。
 - 4・区内在住をベースに検討したい。区外通学生にも一定の恩恵を享受できる制度設計としたい。
 - 5・企業から来てもらうのも良いが、一長一短ある。一人の講師が複数に呼び掛ける場合は、習熟度に差が出る。耳学問は持続しない。参加人数の制限など制約ができるだけ少なくなるよう挑戦したい。
 - 6・業種によると思う。危険負担をどのようにするかも含め、協定を結ぶなど検討したい。
 - 8・CSR（企業の社会的責任）だと思う。営利とは異なる活動でPRする企業も増えている。企業も利潤追求に逆行する取組に手を出すことも必要だと思う。
 - 9・利用者の自己責任として参加してもらう。間接責任としては、行政も責任を負うこともあるが。
- （高齢者の見守り）
- 13・見守りが必要なのは、確かに難病もあるので、その点についてビジョンを修正したい。
 - 14・ネットワーク推進員は全市的に廃止されることになっているが、各地域に統括リーダーとして地域を良く知る人を1人配置したいと考えている。全体の管理は社会福祉士など、福祉の専門家のコントロール下でやるべきと考える。
 - 15・これまで行政が町会におんぶに抱っこで、いろいろお願いばかりしてきた。マンション住民とのつながりづくりなど大変な課題を抱えている中で、さらに町会に負わせることはどうかと思う。災害対策など命にかかわる取組については、税金をいただいている行政の責任でやるべきと考える。
 - 16・地域事情を踏まえた濃淡を実施したいと考える。
 - 17・◎◎ダイヤルは必要だと思う。ビジョンに盛り込みたい。
 - 18・これまでの取組に追加していくことが大切。そこに専門家の視点を入れることが重要
 - 19・一定規模で継続して実施するには、体制が必要であると考えます。

(災害対策)

- 21・ソフト中心にビジョンに掲載したが、全体の都市計画については広域行政にかかわるものであり、権限でできないものもあるが、議論の俎上にあげてもらおうと考える。
- 22・つなげ隊も訪問の中で、高齢者の危険を察知すればサポーターに繋げることにしたい。見守りサポーターには福祉に特化してもらいたい。
- 23・つなげ隊のメンバーは安心安全パトロールが担当で、パトロールする過程で業務を実施してもらうので、従来に比べて負担が激増しているわけではない。ボランティアを入れることを検討する価値はあると思う。
- 24・学校や企業も対象にすることとします。

3 田中(誠悟)委員からの提案

- ・区政戦略会議の論議に対する提案

会議の時間的制限がある中で、効率的なディスカッションを行うためには、作業部会を設置し、事前に委員間で議論し、戦略会議においてプレゼンテーションを行う。

作業部会は「教育・子育て・国際交流」「防犯・防災・地域社会」「シティ・プロモーション」の3部会から構成される。

4 意見交換

- ・作業部会の案に賛成。戦略会議は月に1回しか無いので、それ以外に委員間で発信できれば良いと思う。
- ・全委員の賛同により作業部会を置くこととなった。